

3 ゲストティーチャー派遣（学校教育支援事業：お出かけ授業）

この事業は、【博物館が有する価値ある収蔵資料と学芸班職員の専門知識や技能を学校での学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めるとともに、主体的に生きる力・生き抜く力の育成を支援する】ために行うものです。

主に小学校の社会科・理科の授業に**学芸員・研究員をゲストティーチャーとして派遣**し（総合的な学習の時間、その他の教科等での派遣も一部あり）、先生方の指導を補佐しながら学習内容・学習指導の充実を図り、教育効果を高めることを目指しています。

次のページから、当館作成の「小学校社会科・理科の各学年単元一覧表」「各学年の年間指導計画」「学習内容説明シート」を掲載していますが、その中に「学習セット（S）」、「学習プログラム（P）」という表記があります。

「学習セット（S）」は1単位時間の一部分（10分～30分程度）を学芸員・研究員が主たる指導者として学習支援にあたる形態を意味しており、「学習プログラム（P）」は1単位時間における展開のほぼ全てを学芸員・研究員が担う（先生方には補佐をお願いする）形態を指す「便宜的な」言葉・表現です。

授業は先生方の構想や子どもたちの思いを柱として展開されるものですから、この冊子で紹介した「学習内容の例」はプログラム（P）よりセット（S）の方が多くなっています。それでも、できる限り柔軟に対応させていただきたいと考えていますので（例えば、学習内容の追加・部分変更、内容によっては学習プログラムの一部をタブレットを介した遠隔授業・遠隔解説として行うなど）、まずはお気軽にご相談ください。

派遣授業や遠隔授業（遠隔解説）を通して、これからも多くの学校との交流ができるよう願っています。

この「プログラム集」には小学校社会科・理科に関連する内容以外に、**小中学校共通の題材**として「総合的な学習の時間、その他」のプログラムも例示しています。中学校での授業展開に活かせる部分もあるかと思いますので、ご一読・ご活用くだされば幸いです。

※ 「問い合わせ先」は、裏表紙内側に記載しております。